

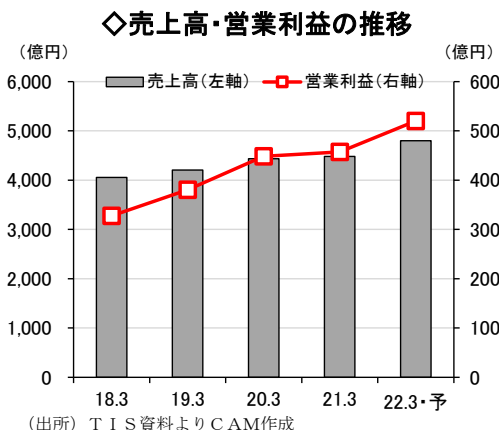
企業ニュース TIS

(東証1部 : 3626) <https://www.tis.co.jp>

作成者: 村上大志

決済関連システムに強い国内ITサービス大手の一角

1971年設立。金融（カード・メガバンク）、製造（建機・自動車・化学など）、流通、サービス、公共、通信など幅広い顧客基盤を有する国内ITサービス大手の一角。特に金融の決済分野に強く、クレジットカードの基幹システム開発では国内市場シェア約50%、ブランドデビットカードのサービス提供やシステム開発では国内市場シェア約80%を誇る。中期経営計画では24.3期の売上高5,000億円、営業利益580億円、営業利益率11.6%などを目指す。21.3期のセグメント別売上高構成比はサービスIT28%、BPO（マーケティングや事務業務などの受託）7%、金融IT25%、産業IT39%、その他1%。



IT投資需要の高まりを背景に業績は好調

22.3期・第2四半期累計（4-9月）の連結業績は売上高が2,343億円、前年同期比11%増、営業利益が239億円、同31%増。事業環境の回復及び顧客のIT投資需要の高まりにより、計画比では売上高で4%、営業利益で16%上回った。全セグメントで増収増益となり、特にサービスITではペイメントやマーケティング関連などのIT投資需要の取り込みに加え、前年度に子会社化した企業の業績が反映されたことで、大幅な増益となった。受注高は2,432億円、同14%増と、ソフトウェア開発の積み上がりがけん引し順調に増加した。

22.3期の会社計画は売上高が4,800億円、前期比7%増、営業利益が520億円、同14%増。上期業績が計画を超過したため、通期の売上高を100億円、営業利益を35億円上方修正した。コロナ禍からの回復に加え企業のIT投資は拡大傾向にあり、事業環境は良好である。得意とする決済分野では、キャッシュレス化の進展によりサービス型ビジネスの事業規模が拡大している。特にクレジットカードに関する同ビジネスは、来期のサービスインに向け開発が順調に進んでいる。また、流通やサービス業からの引き合いが強いようで、今後の業績への貢献が期待される。

[株価動向・投資判断]

下期は期初計画並みの予想で上期の好調な受注からはやや保守的に見える。通期計画の超過達成に期待したい。

<3626 TIS 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	443,717 (5)	44,839 (18)	46,070 (19)	29,411 (13)	116.8	90.00
21.3	448,383 (1)	45,748 (2)	39,257 (▲15)	27,692 (▲6)	110.5	35.00
22.3 予	480,000 (7)	52,000 (14)	52,000 (32)	38,000 (37)	151.9	40.00

(注) 20年4月1日付で1株につき3株の割合で株式分割を実施。20.3期の1株利益は当該株式分割考慮後の数値



[主要株価指標] (売買単位: 100株)

株価 (2021/11/12)	3,345 円
年初来高値 (高値日)	3,355 円 (21/11/12)
同 安値 (安値日)	2,074 円 (21/1/5)
予想 P E R (22.3 予)	22.0 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,137.7 円
P B R	2.94 倍
予想配当利回り	1.20 %
(1株当たり配当金40.00円)	
R O E (21.3)	10.8 %
発行済み株式数	25,116 万株